

## 13 長崎県／羽生 紀佐子(74歳)

あなたへ

あなたに出会えてなかったら、  
いのちにふるさとがあると信じなかったでしょう。  
あなたは教えてくれました。  
いのちは確かにふるさとへ帰るのだと。  
あの朝、目が覚めてあなたの部屋へ行ったら、  
あなたはタベ別れたときのままで、静かになっていました。  
さよならも言わないで。  
もう少し優しい言葉を交わしておけばよかった...。  
明日もまた、同じ日が来ると思っていた...。  
人は独り生まれて、独り死ぬのだと覚悟していたつもりだったけど、  
こんなに突然、その日が来るとは。  
独り残され、茫然としていたとき  
「先に帰るからね」と、あなたの声。  
「お帰り」と仏様のお声。  
清らかな風が部屋に流れました。  
あなたは仏様のお国へ帰って行ったのですね。  
人が死んだら、いのちのふるさとへ帰るのだと、  
ずっと語り聞かせてくださっていました。  
やはり確かなことでした。  
あの日から私は、仏様のお国から届くお声に耳を澄まして  
生きています。元気に生きています。  
やがて私も、ただいまと、仏様のお国へ帰ります。  
ふるさとへ帰ります。  
そこで再び、あなたに会えます。  
今度は優しい言葉だけで語りかけます。  
それまでしばらく、さようなら。

羽生 紀佐子

ふるさとへ帰った

あなたへ